

駅の耐震対策により鉄道の安全・安定輸送を確保 (愛知県名古屋市)

事業者：名古屋鉄道株式会社

II-1 電力等エネルギー供給の確保



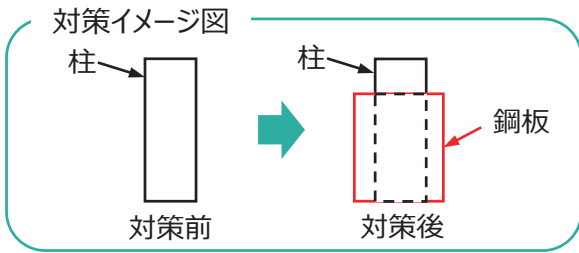
対策前



対策後

4面鋼板巻き立て補強を実施

II-2 食料供給、ライフライン、サプライチェーン等の確保



対策名： No.149 大規模地震による駅、高架橋等の倒壊・損傷に関する緊急対策

事業名： 鉄道施設総合安全対策事業（耐震対策）

- ポイント**
- 他社路線への乗換ターミナル駅で利用者の安全確保
 - 併設する商業施設開業と連携
 - 大規模地震による損傷レベルを最小限に食い止め、駅としての機能を維持

地域の概要・課題

瀬戸線大曽根駅は他社路線との乗換ターミナル駅であり、1日の平均乗降人員は3万人を超える名古屋鉄道における主要駅のひとつです。もともと1時間当たりの片道列車運行本数が10本以上の線区でしたが、平成18年に「駅耐震」の対象となりました。

駅部テナント等との調整・交渉もあり、施工までかなりの月日を要しました。

事業の概要

平成30年度より駅部テナントの退去から、併設するあらたな商業施設開業を経ての3か年計画による耐震補強工事です。（令和2年度完了）

駅機能を保持しながらの施工であったため、利用されるお客様の動線にも十分配慮しました。

【見込まれる効果】

阪神・淡路大震災を教訓に、損傷の激しいせん断破壊先行型から優先的に補強を行い、構造物の崩壊を防ぐ目的としています。

不足するせん断耐力を補うよう、補強方法として4面鋼板巻き立て及び1面せん断補強を採用して耐力を満足させました。

これにより大規模地震による損傷レベルを最小限に食い止め、駅としての機能を損なわない補強が実施出来ました。

II-3 陸海空の交通ネットワークの確保

II-4 生活等に必要の情報通信機能・情報サービスの確保